



あけぼのつうしん

令和5年（2023年）3月23日発行

No.83

〔目次〕

■ 注目！notable case ～道内図書館（室）トピックス～	1
○ 恵庭市立図書館恵庭分館 「手のひら静脈認証システム」導入	
○ 滝上町図書館 おとなの図書館まつり、コミュニティカフェ	
○ 安平町立早来学園まなびお図書室 学校に地域の図書館 & YouTube でWEB 予約案内	
○ 市立名寄図書館 本と人と出会う場所「土曜ビブリオトーク」	
○ 音更町図書館 作曲家・伊福部昭と音更	
○ 網走市立図書館 高校生による市内高校展	
○ 清水町図書館 好評！「しみず学園」で読み聞かせ	
■ 《特別寄稿》あらためて「書を捨てよ、まちに出よう！」	8
市立小樽図書館長 鈴木 浩一	
■ 令和4年度市町村活動支援事業レポート	9
【運営相談・派遣】本の森厚岸情報館	
【運営相談・派遣】渡島管内図書館振興協議会職員研修会	
【学校ブックフェスティバル】弟子屈町立和琴小学校 & 天塩町立天塩小学校	
■ 令和4年度市町村活動支援事業実績報告	11
■ 令和4年度全道図書館専門研修報告	14
・サービス（資料保存）	
・子ども読書（学校支援）	
■ 道内図書館キャラクター紹介！ Vol.5	16
当麻町立図書館 & 壮瞥町地域交流センター図書室	
■ お知らせ・お役立ち情報	17
○ 2022 年秋 読書週間の主な講師等一覧	
○ 令和5年度図書館活動支援事業（市町村活動支援事業改め）ここが新しくなります！	
○ よりよい図書館サービスに！ 道総研のサービスを活用しませんか	
○ YouTube 国立国会図書館公式チャンネル 「遠隔研修教材」	
○ 文部科学省のホームページ 「図書館の振興」	
■ 管内図書館協議会研修会の企画・運営について	22
■ 編集後記	25



■注目！ notable case ～道内図書館(室)トピックス～

Case1 「手のひら静脈認証システム」導入 恵庭市立図書館恵庭分館

恵庭市立図書館恵庭分館は、「えにあす」に平成30年4月1日の供用開始にあわせて移転しました。



JR恵庭駅から徒歩5分の場所にある「えにあす」は、ほかに民間のスポーツクラブ、コンビニエンスストア、地域FM放送、市民活動センター、保健センター、夜間・休日急病診療所、学童クラブや子育て支援センターが設置された複合施設です。昨年度の実証実験（令和3年8月2～8日、10月11～15日）を経て、令和4年4月1日から無人化（非対面・非接触）による貸出サービスを行っています。

このサービスは、利用者カードを作るのと同時に、手のひらの静脈情報を登録することで利用者カードを持たずに気軽に立ち寄った場合でも貸出が可能となり、いつでも誰でも気軽に利用できるものです。カードを忘れがちな子どもたちや高齢の方々にも大変好評なようです。

この機能を活用して、開館時間を22:00まで拡大。職員が不在（無人）となる17:00以降も仕事や買い物の帰りなど、ゆっくり本選びが楽しめます。もちろんすべての時間を無人化するのではなく、窓口で貸出返却を行っていた職員たちが、より市民と本について語り合える時間が持てる図書館を目指しているとのこと。

恵庭分館は、専有面積約200㎡、蔵書数約44,000冊の小さな図書館です。他の公立図書館と同様にN.D.C.（日本十進分類法）をもとに本を並べていますが、各分野のレイアウト、小説のハードカバーと文庫本の混配、地域資料のまとめ方や高書架の面出しなど細かな工夫が見られ、利用者目線にこだわった明るくアットホームな雰囲気を醸し出しています。蔵書にはICタグを埋め込み、施設内（共有スペース）に自由に本を持ち出して、ゆっくりと読書ができます。

市民に愛される図書館として、益々の利用増が期待できそうですね。

（情報提供：恵庭市教育委員会読書推進課）

※ 参照：恵庭市HP <https://www.city.eniwa.hokkaido.jp/>

トップ>くらしの情報>市政情報>広報・広聴>広報えにわ>広報えにわバックナンバー
『広報えにわ 2021年3月』



おとなの図書館まつり「おいしいチーズの楽しみ方」

そこから毎年、ビールだ！日本酒だ！町長がもてなす滝上の薄荷を使ったモヒートだ！と行いました。アルコール関連の事業は普段なかなか図書館へ足を運ばない男性に好評を博しました。昨年は、新型コロナウイルス感染防止のため、遠方からの講師の招聘、飲食を伴うイベントの実施が難しかったので、滝上町でフレッシュチーズを作っている『月のチーズ』の代表・月村良崇さんを講師に、試食のチーズを事前に図書館で配布して、zoomを活用し自宅でお好きなワインを飲みながらチーズの楽しみ方を学んでもらいました。今年は3月18日にフードロスについてみんなで考えるサルベージパーティ®を企画しています。こちらは図書館利用者から3年ほど前に「いつかやってみたい。」とご相談を受けたのが端緒となりました。〈おとなの図書館まつり〉では講演会のテーマに合わせて必ず資料展示を行うことにしており、道立図書館から展示貸出を受けて、貸出も行っています。



コミュニティカフェ「春のお花でアレンジメント」

毎月開催している町民がマスターを務める〈コミュニティカフェ〉では、子どもも大人も一緒に参加できる事業が多くあります。1月には利用者の方から「共に太極拳を学ぶ仲間がほしい！」という声を受け取り組み、小学生から70代まで幅広い年代の参加がありました。参加された方は、これをきっかけに自分たちでサークルを作り、月2回ほどの活動を継続しています。2月には町内のお花屋さんにマスターを務めてもらい「春のお花でアレンジメント」を学びました。こちらは大人の女性に人気で毎回キャンセル待ちも出ます。今回も桃やラナンキュラス、チューリップ、ミモザ等の春らしいお花をふんだんに使って個性豊かな美しいアレンジメントを作りました。〈コミュニティカフェ〉は講師が町内在住者、少人数の定員制と、コロナ禍でも継続して行うことができました。

今後も町の方の声を丁寧に拾いながら、図書館での学びにつなげて行きたいと考えています。

(寄稿：滝上町図書館 辻 めぐみ)

※ 参照：滝上町図書館 HP <http://lib.town.takinoue.hokkaido.jp/takinoue/>

Case3 学校に地域の図書館 & YouTube でWEB 予約案内

安平町立早来学園まなびお図書室

その1 公民館図書室と学校図書館が1つに ～安平町立早来学園～

安平町では、早来地区の4つの小中学校が統合され、令和5年4月から義務教育学校「安平町立早来学園」が開校します。

平成30年の北海道胆振東部地震により早来中学校が被災、再建が必要になったことから企画・設計が始まりました。2階建て校舎の1階にある学校図書館は、早来公民館図書室（令和4年10月で閉室）の機能を併せ持つ地域開放型の図書室となっており、4月1日のオープンに向けて開室の準備が進められています。



早来学園では、図書室（まなびお図書室）やアリーナ、アトリエ、キッチン等が地域に開放されます。図書室以外は事前予約制で、自動施錠や顔認証のシステムの導入により、学校空間とのエリア分けを実現しています。また、司書とは別に“コンシェルジュ”が常駐し、館内案内などの一般利用者対応を行う予定です。



カウンターは、一般用出入口や閲覧スペースが見渡せる開放的な雰囲気です。一般入口横には薪ストーブが印象的なくつろぎスペースがあり、雑誌や新聞が配架され、ソファや電源も設置されています。一般用とは反対側に児童生徒用（学校側）の出入口があり、全面ガラス張りの壁で室内外の様子がよく見えます。入ってすぐのエリアは、絵本や児童書のコーナーとなっています。

蔵書は、早来公民館図書室のものと、統合する各小中学校のものを整理して構成されています。書架は、震災時に倒れたり本が落下した経験から“高すぎない”ように設計されており、通路も車いすが通れるように配慮されています。また、学校エリアの廊下にある図書コーナーにも学習用の資料を置くなど、配架が工夫されています。



授業や休み時間の利用については、積極的な活用に向けて今後ルール作りが進む予定で、町の図書室の担当職員が児童生徒の図書委員会活動に関わるなどの交流も期待されています。

（まなびお図書室については、2月10日訪問時の情報をもとに執筆）

その2 図書室情報をYouTubeで発信

安平町の図書室の担当職員がYouTube（安平町【公式アカウント】）にも登場しています。

「WEB予約のやり方」は、操作するスマホの画面遷移が常に表示されていて、初めての方にも大変わかりやすい構成になっています。説明のスタートは「『安平町』で検索し、町ホームページの下の方に蔵書検索のマークがあって…」と、何とも丁寧です。

コロナ禍で外出自粛が続いていた令和2年には、安平町教育委員会が制作・公開した動画「あびらdeミッション！」にも早来・追分の両公民館図書室の担当職員が出演。「自分のお気に入りの本を図書室で借りてみよう！」というミッションのため、おすすめの本を紹介しました。

参照：安平町【公式アカウント】早来公民館図書室 YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/watch?v=BYF1japorH4>



1 はじめに

市立名寄図書館では、毎月第2土曜日にビブリオトークを行っています。内容は参加者相互による本の紹介と意見交流です。ビブリオバトルと異なり、チャンプ本を決定しません。ビブリオバトルの面白さはそのゲーム性にありますが、一方において優劣を競うことで参加に気後れしてしまう場合も少なくありません。当館のビブリオトークは、本の紹介による交流が主となっており、終始穏やかな雰囲気が進められています。

2 事業開始の経緯と目的

平成30年8月、市民の方が中高生を対象とした児童文学の読書会を立ち上げようとしていました。しかし、残念ながらこの読書会に参加者は集まらず、活動に至りませんでした。当館がその方から相談を受け、対象者を限定しないビブリオトークに形式を変えて図書館事業として平成30年12月から実施することになりました。当館としては、この事業の実施により中高生以上向けイベントの充実を図るとともに、参加者が本と出会い、人と人との交流が活性化することを目的としています。

3 活動状況

平成30年12月に第1回目を開催し、令和5年2月までに計44回を開催しました。これまでの参加者数は累計303人となり、1回あたり平均6.8人にご参加いただいています。

当初は10人を超える回も少なくありませんでしたが、新型コロナウイルス感染症流行期以降、それ以前と比べて参加者数の落ち込みがみられます。

4 事業効果

土曜ビブリオトークの事業効果としては、参加者相互による本の紹介を通して交流が活性化されたこと、さらにそれにより参加者の読書意欲が刺激されたことが挙げられます。イベント終了後の会場では参加者同士で語り合ったり、さらにおすすめ本を紹介する姿が見られます。

また、図書館職員も司会兼参加者として、おすすめ本を紹介することもあり、利用者との円滑なコミュニケーションにつながっています。

5 おわりに

現在土曜ビブリオトークは、二つの課題を抱えています。それは特定の参加者で固定されてきていること、そして新型コロナウイルス感染症流行期以降の参加者減少です。

今後はSNSの活用などによって実施状況の可視化を図り、参加のきっかけにつなげていく取り組みが必要であると感じています。今後も継続して取り組み、いつでも気軽に本について話せる場所と機会を提供していきたいと考えています。



開催告知ポスター

(寄稿：市立名寄図書館 安田 穰)

伊福部昭氏は日本を代表するクラシック音楽の作曲家で、「ゴジラ」をはじめとする数々の映画音楽の作曲家としても知られていますが、父親の音更村長就任に伴い、9歳から12歳まで音更村で過ごし音更尋常小学校を卒業しました。その後、親元を離れ進学しますが、父親が音更村長を続けていたため、夏休みや冬休みには父母のいる音更で過ごし、この時期の生活体験が後の作曲活動に大きな影響を与えました。

後年、音更町歌を作曲した折に、町に次のような文章を寄せています。「音更は、私にとって少年期を



図書館2階「伊福部昭音楽資料室」

過ごした懐かしい揺籃の地で、終生忘れることができない」（「音更町史」昭和55年発行より）。

このように氏が深い思いを抱く音更町の図書館には「伊福部昭音楽資料室」があり、楽譜や書籍、報道記録など1,400点以上を収蔵しています。東京、神奈川、埼玉、千葉、長野、奈良、新潟、愛知などからも伊福部ファンが訪れます。

また、当館には、美術展示などができる170㎡の展示ホールがあり、今年度は氏の命日である2月8日に合わせ、2月7日から19日まで、「特別

展 作曲家・伊福部昭と音更」を開催しました。メインとなる展示物は、町文化センターで開催された伊福部音楽のコンサートのポスターや、氏が音更で過ごしていた頃に交流のあった人物の物品などです。音更には民間飛行場があった時代があり、氏もプロペラ飛行機の後部座席に搭乗して空を飛んでいたようで、その時のパイロットが使っていた高度計を展示したところ、多くの人の興味を引いていました。他にも、当館保有のアップライトピアノを展示し、ストリートピアノのように自由に弾いてもらったところ、1日に4、5名の方が楽しまれていました。



現在、音更町では、記念事業などでの伊福部音楽のコンサート開催、平成29年に発足した伊福部昭記念ジュニアオーケストラの活躍、令和4年4月にオープンした道の駅に2メートルを超えるゴジラのフィギュアを設置するなど、町を挙げて氏の功績を讃える動きを活発化させています。

当館としても、令和5年度は「伊福部昭音楽資料室」の拡張を予定し、また、夏にはご遺族から新たな資料を寄せていただけるとの報告も受けたことから、より一層、資料室のPRや関連事業を展開していきたいと考えているところです。



アップライトピアノの展示

(寄稿：音更町図書館 加藤 正之)





開催告知ポスター

網走市立図書館では、「利用の少ない層である高校生による企画展示を行うことで、来館促進を図ったかどうか？」との図書館協議会からの意見をきっかけに、平成25年度から「高校生による市内高校展」を開催しています。この展示は市内すべての高校にご協力いただいております。高校生の視点や考え、あるいは学校活動を紹介し、あわせて関連の図書を展示する連続展です。各校の展示期間は一週間です。

子どもや孫の作品を見に来た方、自分や友だちの作品を見に来た高校生など、カウンター前での展示ということで殆どの来館者の目にとまることもあり、各展示2,000人近くの方にご覧いただいております。

各校の担当教諭に閲覧人数を報告すると、驚きとともにとても喜んでいただいております。毎年の協力が繋がっていると思います。

また、展示中に紹介されている本の貸し出し希望者が増え、同世代の子が紹介しているものを読んでみようと思う高校生がいるということに、この展示の効果を感じています。

今年度のポスターは、職場体験やインターンシップに来た中高生の意見を参考に作成しました。多くの高校生が試験期間中にしか来館しないという厳しい現実がありますが、将来を担う若い世代の方たちにも利用されるよう、これからも継続して企画・展示してまいります。



令和4年度展示内容

高校名	展示期間	内容
北海道網走南ヶ丘高等学校	12月2日(金) ～12月9日(金)	美術部・写真部の作品紹介と学校紹介
北海道網走養護学校高等部	12月15日(木) ～12月22日(木)	作業学習で制作した作品展示
北海道網走桂陽高等学校	1月19日(木) ～1月26日(木)	図書局による図書だより、おすすめ本の紹介
日本体育大学附属高等支援学校	2月14日(火) ～2月21日(火)	学校紹介、学校図書館紹介

(寄稿：網走市立図書館 佐藤 新)



新型コロナウイルスの影響により、毎月第2・第4土曜日に開催していた「お話し会」は開催日を減らすことになり、子どもたちが集まる場所に出向くことで、気軽に読み聞かせを楽しんでもうらおうと始めた「出張お話し会」も何度も中止せざるを得ない日が続きました。

そんな状況の中、60歳以上の方が様々なことを学ぶ「しみず学園」のオリエンテーション時間で図書館PRを兼ねた読み聞かせを年間3回程度実施しています。

令和4年度の「しみず学園」には141名が在籍しており、その前で読み聞かせをするのは緊張しますが、学園生の皆さんにとっても好評で、終了後「今日もよかったよ」と声をかけてもらえることが励みになっています。

始めた当初は「え？なぜ絵本??」という雰囲気でしたが、継続は力なりで、絵本は大人が読んでも面白い！ということ伝える役割は果たせていると思っています。



読み聞かせと合わせて行っている本紹介

しみず学園で紹介した「清水町図書館おすすめの本」(令和4年度)



いつでも君のそばにいる
葉っぱ切り絵コレクション
リト@葉っぱ切り絵/著
講談社 2021.5



くらべる東西
おかべ たかし/文
山出 高士/写真
東京書籍 2016.6



きいのいえで
種村 有希子/作
講談社 2013.5



絶滅危惧動作図鑑
藪本 晶子/著
祥伝社 2021.10



北海道の法則デラックス
北海道の法則研究委員会/編
泰文堂 2016.6



ちょっとだけ
瀧村 有子/さく
鈴木 永子/え
福音館書店 2007.11

(寄稿：清水町図書館 山本 明子)

生涯学習教室「しみず学園」

1975年(昭和50年)に開設され、高齢者の生きがいある人生観を確立するとともに、社会の発展に適応するために必要な知識や教養・生活技術等の学習活動を促進することをねらいとしています。

主な学習会場は、清水町中央公民館で、町内に住む60歳以上の方なら誰でも加入できます。午前中に社会や生活に関すること、健康維持に関すること、教養・趣味に関することなどの講義を受け、午後からクラブ活動を行っています。



鈴木館長は、道立図書館に勤務されていた当時、前誌『あけぼの号つうしん』（移動図書館車あけぼの号廃止にともない、現行の誌名に変更）を創刊し、多くの情報を発信されました。当館ご退職後は、市立小樽図書館長として7年間勤め、“まちの図書館”としての新たな事業を数多く展開されました。多彩な実践を振り返り、図書館職員へのメッセージをいただきました。

■ 《特別寄稿》 あらためて「書を捨てよ、まちに出よう！」

市立小樽図書館長 鈴木 浩一

「書を捨てよ、町へ出よう（原著の表記）」は、ご存じのとおり、寺山修司の評論集のタイトルである。道立図書館時代の10年以上も前、道内の図書館関係者向けの『北の図書館』という雑誌に書いた拙文のタイトルで使わせていただいた。当時、一言でいうと、本を見て、人を見ていない、図書館の内を見て、まちを見ていないと感じ、公立図書館、特に地方の中小図書館職員に訴えたものである。では、なぜ「書を捨てよ、まちに出よう！」なのか。

ちなみに、図書館の利用者は、まちの2割程度だといわれる。つまり8割の住民は図書館を利用（必要と）していないことになる。「まちのコミュニティ」、「生涯学習の拠点」といわれる図書館の利用者が2割程度で十分なのだろうか？ 来館者だけでなく、全住民、全域サービスを意識しているだろうか？ 小樽図書館の利用も例に漏れず、勤務し始めた頃は、「図書館が遠く不便だ」「図書館は本の好きな人の行くところ」、とよく言われたものである。

“まちの図書館”となるためには、まず、図書館を知ってもらい従来の図書館のイメージを変えること、そして来館サービスではなく全域サービスを目指すことが必要だと考えている。本が好きでなくても図書館は暮らしていくうえで価値があるのだ。そのために、小樽図書館は、外に飛び出し、個人や団体・機関と様々な連携事業を行い、さらに市民と協力し、「まちなか図書館」等のサービスポイントを作ってきた。

ある研修会で、質問があった。「小樽はいろいろな事業をやっているが、資料収集やレファレンスサービスがおろそかになるのでは？」と。司書として、とてもよくわかる質問だ。司書である以上、資料にこだわるのもレファレンスに応えることも専門職としての基本である。しかし、図書館サービスは、住民サービスであり、図書館員は、資料という武器で、まちに奉仕する職員であり、図書館はそのための機関である。小樽図書館では、2割弱の利用者への完璧なサービスを目指すよりは、まず、すべての市民に利用される図書館を目指そう、と職員に話してきた。サービスを続けながら、サービスを工夫しながら、司書のスキルアップを図るのである。

平成18年に文部科学省から報告・提案された『これからの図書館像』の「これからの図書館の在り方」に、(1) 地域社会の現状を把握し、生活や仕事の上で様々な課題があることを認識し、(2) 図書館がどのように役立つのか（中略）を明らかにし、(3) そのための支援ができるようにサービスや運営を改革する、さらに、(4) 図書館の在り方を提起し、行政関係者を含む地域の人々にPRする、とある。まさに、小樽図書館が目指したことである。

道内は、ほとんどの市町村で過疎化が進んでおり、読書環境の悪化が進んでいる。そんなときだからこそ、“まちの図書館”の役割は大きくなっている。その中で注目されているのが、民間による新しい図書館スタイルだ。千歳市の「まちライブラリー」は、まさに本を介在したまちのコミュニティを目指している。誰もが本や情報を持ち寄り集い、誰もが提案、誰もが楽しみ、学ぶ空間を目指している。人に寄り添っているのである。また、静岡県焼津市の「みんなの図書館さんかく」も、市民が本を持ち寄る「参画」する民間図書館だ。

公立図書館は、公的機関でありサービス範囲は広く制約も多い。しかし、いまこそ、まちに飛び出して住民とともに考え、新しい図書館を創るときではないだろうか。私が、35年間、図書館に関わって得た答えなのかもしれない。

■ 令和4年度市町村活動支援事業レポート

【運営相談・派遣】本の森厚岸情報館 講義「実践！レファレンス・サービス」

レファレンスサービスの現状改善のため、「レファレンスの基礎の基礎について学びたい！」とのご相談をいただきました。現地に赴き、配付資料やパワーポイントの画面を用いながら、①「レファレンス・インタビュー」、②「レファレンスブック」、③「インターネット情報源」についてそれぞれ講義を行いました。①、③については事前に演習課題を設定し、取り組んでもらった回答について詳細な解説の時間を設けました。

今回の講義を参考に、どんどんレファレンスの経験値を積み重ねていってもらえると嬉しいです！



▲講義の様子
(会場は普段、会議室や視聴覚室として運用)

【運営相談・派遣】渡島管内図書館振興協議会職員研修会

～「誰もが利用できる図書館」を目指した公共図書館サービス～

11月11日（金）、渡島管内図書館振興協議会職員研修会に伺い、「公共図書館における読書バリアフリーの取組みについて」をテーマに、図書館における障がい者サービスとは、道立図書館での読書支援の取組、道内図書館での取組について紹介しました。

最初に、図書館における障がい者サービスの定義と目的を確認し、「公立図書館における読書バリアフリーに関する実態調査報告書」（全国公共図書館協議会）により、障がい者サービスの要綱・要領・規則等の策定状況を紹介しました。

道立図書館での読書支援の取組では、照明拡大鏡やリーディングトラッカーなどの読書サポートツール、コミュニケーションボードなどのコミュニケーション支援、LLブックなどのバリアフリー資料、電子図書館などを説明しました。

最後に、道内図書館での事例として、日高町立門別図書館郷土資料館の認知症サポーター養成講座の受講と地域包括支援センターと連携した認知症関連資料の共同展示、白老町立図書館の障がいをお持ちの方や高齢者などへの宅配サービス、滝川市立図書館の『高齢者・障がい者向けサービス活用ガイド』による広報や職場体験として小中学校の支援学級の受入れ、などを紹介しました。

研修会では、このほか、函館視覚障害者図書館長の森田直子氏による「函館視覚障害者図書館とサピエ図書館の取組について」の講演があり、参加者は図書館における読書バリアフリーについて学ぶ貴重な機会となりました。



【学校ブックフェスティバル】 弟子屈町立和琴小学校 & 天塩町立天塩小学校

支援事業のひとつである学校ブックフェスティバル。初めて実施する市町村や長らくご無沙汰している市町村へは、道立図書館職員が訪問し、そのお手伝いをしています。今年度の冬にお伺いした2町の小学校でも、子どもたちがたくさんの本を前にして目をキラキラさせる素敵な瞬間に立ち会うことが出来ました。

弟子屈町(会場:和琴小学校) 2023/1/27

参加児童数:9名

会場である体育館を半面に区切り、前方をおはなし会場、後方を本を広げるスペースとし前日から準備。町の図書館から持参した大型絵本や布絵本も壁側に設置し、5年生の司会で会がスタートしました。本の貸出し時間前には、学校職員の方と児童によるブックトークや、図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせで大盛り上がり。小規模校ながらも、校長先生をはじめ、学校職員や保護者、ボランティアも意欲的に運営に参加する、非常に賑やかな事業となりました。



【事業の流れ】

前日

○会場準備 (15:00~16:00)

当日

○校長先生あいさつ (13:00~13:05)

○ブックトーク (13:05~13:20)

○おはなし会 (13:20~13:35)

○換気、休憩 (13:35~13:40)

○本選び・貸出・感想 (13:40~14:50)

天塩町(会場:天塩小学校) 2023/2/10 ※啓徳小学校と合同開催

参加児童数:天塩小学校 105名、啓徳小学校 10名

体育館を全面会場としました。会場の前方と後方にパネルを用意し、事業名やコーナー名を大きく貼り出しわくわく感を演出。会場である天塩小学校と合同開催校である啓徳小学校は車で25分ほどかかるため、天塩小学校の児童は広げられた本の間でそわそわしながら到着を待っていました。開催時間を二部制に分け、本の貸出し前には町の図書室や道立図書館についてのクイズを出題し、正解が発表されると驚きの声上がるなど、読書への期待を高めました。



【事業の流れ】

前日

○会場準備 (15:00~16:30)

当日

※第一部(天塩小学校1~3年、啓徳小学校)、
第二部(天塩小学校4~6年)に分けて開催

○はじめに(5分)

○クイズ(5分)

○本選び・貸出(25分)



令和4年度市町村活動支援事業実績報告

1 図書館活動支援事業

(1) 運営相談・派遣 (25 市町村・団体)

◆ 市町村

管内	市町村名	実施日	相談内容
空知	美唄市	6/30	地域資料の収集・保存・活用〔美唄市立図書館職員研修〕
	芦別市	7/13	パスファインダーの作成
	滝川市	6/24	レファレンスサービスのスキルアップ〔滝川市立図書館職員研修〕
	栗山町	7/26	レファレンス・インタビューの姿勢と合理的配慮〔栗山町図書館職員研修〕
	北竜町	8/30	図書館活動と施設（公立図書館と学校図書館の複合施設について） 除籍・選書と基準
後志	寿都町	11/8	除籍・選書・リクエスト、装備と基準作り
	京極町	6/15	子どもの読書活動推進計画の次期計画策定、修理製本
胆振	室蘭市	4/20	相互貸借に係る業務、リクエスト対応、レファレンスサービス
	登別市	6/24	学校図書館で映えるPOPの作り方 〔（登別市）学校図書館担当者・図書ボランティア連絡会議〕
	むかわ町	5/18	図書館の関係法規、選書・除籍、子どもの読書活動推進計画（次期）の策定
	豊浦町	4/21	図書室の活性化（環境整備、広報活動、レファレンスサービスの基本、利用実績の分析）
	壮瞥町	5/26	除籍基準・選書基準の作成
日高	様似町	7/20～21	図書館の意義と役割、レファレンスの基本、地域資料のレファレンス・収集・保存・活用
渡島	松前町	7/2	読書ボランティア講座（町民向け） 図書館におけるボランティアの受入れについて（職員向け）
檜山	今金町	6/15	資料の収集と除籍
上川	士別市	7/1	レファレンスサービスの基礎
	富良野市	2/12	【資料提供によるオンデマンド】ボランティア活動の活性化
	幌加内町	6/18	絵本読み聞かせ講習会「トレーニング編」
10/2		絵本読み聞かせ講習会「発表会」	
十勝	鹿追町	8/6～7	図書館の意義と役割、図書館活動と施設 〔鹿追町新図書館検討についての学習会〕
	広尾町	8/24～25	資料収集と除籍、YA・ティーンズ層の利用促進、図書館ボランティアの活性化、利用実績の分析と人口構成比
	中札内村	7/15	除籍・選書・リクエスト基準の整備
釧路	厚岸町	11/1	レファレンスサービスの基礎

◆ 地域・管内

管内	研修名	実施日・会場	研修テーマ・講演内容等
空知	北空知3町合同司書会	9/14 秩父別ファミリースポーツセンター	図書館運営に係る情報提供 (複写、迷惑行為、電子図書館、障がい者サービス、関係法規など)
渡島	渡島管内図書館振興協議会 職員研修会	11/11 北斗市総合文化センターかなで〜	公共図書館における読書バリアフリーの取組について
オホーツク	網走ブロック公共図書館 職員研修会	12/14 【オンライン】	道立図書館電子図書館事業について

(2) 重点運営支援（1町）

管内	町名	実施日	研修テーマ・講演内容等
空知	上砂川町	5/27	現状と課題について 年間計画、広報の工夫、除籍・選書基準作りなど
		3/22	(訪問予定)

2 学校図書館連携支援事業

(1) 学校図書館運営相談・道立学校図書館運営相談（5町、道立学校2校）

管内	町名・学校名	実施日	相談内容
後志	ニセコ町 【近藤小学校】	8/9	学校図書館の環境整備
胆振	豊浦町 【豊浦小、大岸小、礼文華小】	7/26	学校図書館の環境整備
日高	浦河町 【荻伏中学校】	10/4	学校図書館の環境整備〔町内図書館連絡会議〕
渡島	函館養護学校	8/2	学校図書館の環境整備
檜山	今金町 【今金小学校、今金中学校】	6/14	学校図書館の環境整備（今金小、今金中） 電子図書館について（今金中）
上川	美深高等養護学校	9/29	学校図書館の環境整備
オホーツク	大空町 【東藻琴中学校】	9/2	学校図書館の環境整備

(2) 学校ブックフェスティバル（20市町村）

管内	市町村名	実施日	実施校	開催方法		参加人数	貸出冊数
				バイキング	ギャラリー		
空知	夕張市	7/19	ゆうばり小学校	○		60	602
後志	(余市町)	12/1~2	大川小学校	○		217	615
	(ニセコ町)	10/25	ニセコ小学校	○		300	495
		11/25	近藤小学校	○		50	123
	(喜茂別町)	7/19~21	喜茂別中学校	○		39	96
	(仁木町)	11/4	銀山小学校	○		41	179
	(赤井川村)	12/2	赤井川小学校	○		44	173
胆振	(壮瞥町)	1/27	壮瞥小学校		○	90	1,000
日高	(様似町)	8/26	様似小学校	○		139	378
	(新冠町)	9/20	朝日小学校	○		34	117
渡島	(松前町)	6/10	小島小学校		○	17	80
		6/15	大島小学校		○	20	80
	(八雲町)	2/9	熊石小学校	○		50	187
檜山	(奥尻町)	6/8	青苗小学校		○	28	150
上川	(富良野市)	7/21	布部小学校	○		3	69
		9/14	山部小学校	○		37	207
		11/8	鳥沼小学校	○		20	155
	(愛別町)	9/6	愛別小学校	○		101	462

管内	市町村名	実施日	実施校	開催方法		参加人数	貸出冊数
				パイキング	ギャラリー		
留萌	(羽幌町)	12/16	羽幌小学校	○		258	655
	天塩町	2/10	天塩小学校	○		115	217
オホーツク	(大空町)	9/2	東藻琴中学校		○	53	150
十勝	清水町	12/19	清水小学校	○		321	669
釧路	弟子屈町	1/27	和琴小学校	○		9	145
	(釧路町)	11/1	別保小学校	○		213	581
		11/28	富原小学校	○		399	854

合計 8,439 冊

※ (市町村名) は、職員を派遣せず図書等の貸出しのみを実施。

3 支援貸出事業

(1) サポートボックス (17 市町村 のべ 50 セット)

令和4年度 セット名	利用市町村
アイヌ文化はじめてセット	仁木町、富良野市、愛別町
文化歴史ボックス	－
自然ボックス	愛別町
小学国語 (光村) セット	白老町
小学国語 (教育) セット	仁木町、赤井川村、奥尻町、苫前町
中高生ノンフィクションセット	小樽市、富良野市
中高生小説セット	秩父別町、ニセコ町
体力向上・スポーツボックス	富良野市、中川町
朝読・昼読ボックス	秩父別町、倶知安町、福島町、奥尻町、名寄市、富良野市、愛別町、中川町、釧路町
仕事ナビボックス	倶知安町、富良野市
食育ボックス	富良野市、斜里町、鹿追町
理科読セット	愛別町

(2) 大量一括貸出し (34 市町村)

令和4年度 (2022 年度) は、34 市町村に約 22,000 冊貸出 ※ 令和5年2月末時点実績

(3) 事業貸出し (26 市町村) ※ 令和5年2月末時点実績

■ 令和4年度全道図書館専門研修報告

○ サービス(資料保存)「基礎から学ぶ！ 本の構造と治し方」

令和2年度の専門研修「資料保存」は感染症の拡大を受けて中止となり、今年度は2年ぶりの開催となりました。本の修理技術に関する研修は毎回関心が高く、今回も定員を大きく超える参加申込みをいただきました。座席間隔を通常より広くするなど感染症対策をとり、初心者を対象とした実習を中心とする研修を行いました。

日 時：令和4年10月14日(金) 10:20~16:00

会 場：深川市経済センター

参加者：23名

講 師：日本図書館協会資料保存委員会委員 横山 道子
(神奈川県立藤沢工科高等学校 学校司書)

- 研修は「利用のための資料保存」という考えに基づき、参加者それぞれがハードカバー本1冊を教材に行いました。
- 各実習プログラムは、講師の実演を見た後、それに倣って参加者が作業を行う流れで進め、その合間に関連知識の講義・解説をいただきました。
- 1つ目の実習は「本の解体」。表紙を本体から外すことで本の構造を実際に確認し、背を補強するための紙筒作成も行いました。
- 「普段は市販の補修テープを利用している」という声もある中、“超々極薄”の和紙と糊を使用した実習に苦戦する様子も見られましたが、破れやしわ、ページ外れなど様々な修理場面を想定しながらの実習を終え、「実践的で役に立つ内容だった」と資料保存への理解を深めていただきました。



講師の実演を見学



紙筒の封入

- ・講義 資料の取扱い、「利用のための資料保存」
- ・実習 ハードカバー本の解体 <解説：本の構造>
- ・実習 紙筒作成 <解説：紙の目・糊の種類と塗り方>
- ・講義 破損原因、本の装丁について
- ・講義 資料保存5つの方法・3つの観点、資料修復の原則
- ・実習 ページ外れの修理 <解説：テープと糊 ほか>
- ・実習 皺のばし <解説：紙と水>
- ・実習 ページ破れの修理 <解説：和紙(典具帖)の特徴>
- ・実習 紙筒封入 <解説：作業のコツ>
- ・実習 見返し切れ(ノドの補強) <解説：各種の和紙>
- ・実習 三つ目綴じ(中綴じ) <解説：対応法の判断>
- ・解説 材料と道具、参考資料案内 ほか



ページ破れの修理

○ 子ども読書(学校支援)「やってみよう!ブックトーク ～最初の一步は大きな一步」

専門研修「子ども読書」は学校から児童生徒と本を繋げる取組みとして実演を求められることもある「ブックトーク」をテーマに開催しました。講義・ワークショップを通してブックトークについて学び、実践に繋げるための研修を行いました。

日 時：令和5年1月13日(金) 10:30~16:00

会 場：北海道立図書館 研修室

参加者：20名

講 師：草津市立図書館長 二井 治美

- 受講者は事前課題の滋賀県学習情報提供システム「におねっと」ブックトーク (<https://www.nionet.jp/dokusho/booktalk/index.html>)「準備編」を視聴していただき、事前課題①「ブックトーク構成図」、「組み立ての図」と、事前課題②「切り口やつなぎを考えたブックトークの原稿(3冊紹介)」を事前に提出。
- 午前の研修は、講師によるブックトーク「時間の謎を探れ!!」実演を見た後、講義「やってみよう!ブックトーク」という流れで進めました。
- 午後の研修は講師がアドバイスを記入した事前課題を元にワークショップ形式で進めました。受講者はアドバイスを元に事前課題の見直しを行ったあと、4班に分かれ、事前課題①「ブックトーク構成図」、「組み立ての図」の発表を行いました。その後、休憩を挟んで事前課題②ブックトークの原稿を元に、班内でブックトークの発表を行い、代表者を決めました。
- 最後に各班の代表が受講者を子どもたちに見立てブックトークの発表を行いました。
- この研修の午前中の実演と講義は、令和5年1月31日(火)~3月3日(金)の期間に道内公共図書館職員を対象として動画配信し、視聴数は203回でした。

- ・実演 「時間の謎を探れ!!」対象小学校6年生
- ・講義 「やってみよう!ブックトーク」
- ・ワークショップ 事前課題①をもとに
- ・ワークショップ 事前課題②をもとに
- ・ブックトーク発表会(班代表者発表)



講師の実演を見学



事前課題①を発表



班内でブックトークを発表

道内図書館キャラクター紹介！

Vol. 5

HP や SNS での広報活動のほか、オリジナルグッズの作成などにも力を発揮する図書館キャラクター。道内各地域で活躍中の、個性豊かなキャラクターたちを紹介します！（説明文・キャラクター画像は各図書館（室）からご提供いただきました。ありがとうございます。）



やまうさ 壮瞥町地域交流センター図書室

旧図書室のオリジナル「うさぎ」をモデルに、2011年1月図書館キャラクターとして誕生。名前を公募して“やまうさ”と命名されました。（図書ボランティア ポピーの会 企画・作成）

壁面装飾、図書カードと愛らしい表情で楽しませてくれている“やまうさ”は、今年で12歳！

昭和新山・有珠山の見える通称「やまびこ図書室」で、みんなを見守り続けています。



誕生の年はちょうど卯年！3月には10匹が勢揃いし、「やまうさ ひな壇」の合わせ技を披露しました▶

◀10周年記念でオリジナルクリアファイルを作成。図書館総合展2021で全国にもお披露目しました。



T0ーマン・ライちゃん 当麻町立図書館

当麻町立図書館ホームページのトップ画面を飾る、マスコットキャラクターのT0ーマンとライちゃん。2012年に、ご当地キャラクターが流行していたことを受けて、当時の図書館臨時職員のご家族がデザインして誕生しました。ホームページのほか、図書館のイベントポスターにも必ず登場する、今や当麻町立図書館の名物キャラクターです。

当麻の「当」の飾りがついたヘルメット



ブルーカラーのヒーロー
T0ーマン

当麻町と名前をかけている男の子のキャラクター。本を片手に、図書館にやってくる子どもたちをいつも見守っています。

大きなピンクのリボンと、当麻町にちなんだ「T」のアクセサリがチャームポイント！



ツインテールのおしゃれなヒロイン
ライちゃん

「ライブラリー」が名前の由来。子どもたちが、本が好きになるように応援しています。

募集!! 図書館キャラ情報

道内の「図書館キャラクター」情報をぜひお寄せください。
自薦・他薦問わず大募集中です！

■ お知らせ・お役立ち情報

2022 年秋 読書週間の主な講師等一覧

「2022・第76回読書週間」開催行事の調査回答をもとに、主な講師一覧を作成しました。次年度以降の企画時にご活用ください。(敬称略)



1. 講演・講座・ワークショップ

	講師名	事業概要等	実施市町村	実施日
1	アーサー・ピナード (詩人・翻訳家)	「絵本と紙芝居のちから」	音更町	10/8
2	長野 ヒデ子 (絵本作家)			
3	岩田 徹 (砂川市いわた書店店主)	岩田徹さん講演会	栗山町	10/22
4	奥山 津久海 (SDGsカタリスト)	講演「絵本はSDGsの土壌 読み継がれてきた絵本の力」	札幌市	11/5
5	田中 幹子 (札幌大学教授)			
6	かとう まふみ (絵本作家)	ワークショップ&講演会	幕別町	10/15、16
7	小林 白炎 (墨絵詩書家)	「小林白炎アート体験教室」	和寒町	11/3
8	シゲリ カツヒコ (絵本作家)	ワークショップ「ぱんつ！パンツ！Pants!?!～絵本作家シゲリカツヒコさんとパンツのデザインをしちゃおう♪～」	釧路市	10/30
9	柴田 ケイコ (絵本作家)	「柴田ケイコワークショップ」	滝川市	9/17
10	そら (絵本作家)	「チビッコあつまれ 読み聞かせひろば」	滝上町	10/1
11	高杉 六花 (作家)	「応援ありがとう！！『君のとなりで。』完結記念講演会」	恵庭市	10/22
12	高島 那生 (絵本作家)	「だるまだ！ 高島那生の絵本のはなしとワークショップ」	中札内村	10/15
13	武田 明美 (絵本セラピスト®)	大人のための絵本セラピー	新冠町	11/9
14	千葉 定是 (孔版画家)	版画教室「版画でつくる自分のマーク(書票)」	幕別町	10/22
15	どい かや (絵本作家)	講演会「絵本『チリとチリリ』ができるまで」、 ワークショップ	厚岸町	11/13
			標茶町	11/12
16	乗代 雄介 (作家)	講演会「『本物の読書家』には、まだ遠く」	北見市	11/20
17	Hanae (渡邊花絵) (チョークアーティスト)	ガラスにお絵かきワークショップ	札幌市	10/23

	講師名	事業概要等	実施市町村	実施日
18	穂村 弘 (作家)	講演会「言葉の不思議」	函館市	10/8
19	堀川 真 (絵本作家)	堀川真さんワークショップ	恵庭市	10/8
20	宮西 達也 (絵本作家)	講演会「宮西達也の世界」	上士幌町	10/22
		保育園でのおはなし会	中札内村	10/24

2. 人形劇等

	講師名	事業概要等	実施市町村	実施日
21	人形劇団こぶしっこ	人形劇等	岩見沢市	10/1

3. パフォーマンス等

	講師名	事業概要等	実施市町村	実施日
22	岸田 典大 (絵本パフォーマー)	絵本パフォーマンス	栗山町	10/2
		絵本パフォーマンス (令和4年度地域連携事業「文学館出前講座」)	当別町	11/5
23	ひのき屋 (音楽グループ)	「ひのき屋」スペシャルライブ	豊富町	10/1
24	ムラニシエンコ (サンドアートアーティスト)	サンドアート公演	中川町	10/29

- ・ 各事業の詳細については、実施市町村へお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- ・ 読書週間調査は、毎年、春と秋に各市町村にご協力いただき、北海道読書推進運動協議会事務局で集約し、公益社団法人読書推進運動協議会へ提出しているものです（今回は、主に10～11月に実施された行事を対象にしています）。



「チビッコあつまれ 読み聞かせひろば」(滝上町)



「ひのき屋」スペシャルライブ (豊富町)

令和5年度図書館活動支援事業 ここが新しくなります！

1 市町村支援を様々なスタイルで受け付けます

- 「重点サポート」 図書館未設置の市町村や司書不在の図書館への支援を拡大します。
- 「講師派遣」 研修会等への講師派遣や情報提供を引き続き行います。
- 「運営相談」 電話・メール・ファクシミリ…様々な方法で相談を随時受け付け、必要な情報やアドバイスをタイムリーにお届けします。



2 資料セット更新！ バリアフリー資料・理科読セット

- ・バリアフリー資料のセットがさらに充実します。
「大きな文字の青い鳥文庫 (サポートボックス)」 「バリアフリーセット (事業貸出し)」
- ・毎年好評の「理科読セット」も最新の資料に内容を更新します。



左：大きな文字の青い鳥文庫
『魔女館へようこそ (上)』
右：青い鳥文庫『魔女館へようこそ』
(どちらも) つくもようこ作、CLAMP 絵、講談社



バリアフリーセットの一部



理科読セットの一部

3 学校からの直接申込みを拡大します

- 「学校図書館支援事業※」と「サポートボックス」は、学校からの直接申込みも受付を開始します。 ※学校ブックフェスティバルは除きます。
- 市町村立図書館等を経由した申込みも引き続き受け付けます。



事業の詳しい内容や資料リストはこちら

道立図書館ホームページ> サービス案内> 図書館協力サービス
> 道内図書館協力サービス 「図書館活動支援事業について」
<https://www.library.pref.hokkaido.jp/web/about/qji1ds0000000td2.html>

よりよい図書館サービスに！

道総研のサービスを活用しませんか

北海道立総合研究機構（以下「道総研」）は、農業、水産、森林、産業技術、エネルギー・環境・地質、建築・まちづくりといった基本的な研究開発分野に関する専門研究機関です。

利用者からの情報の要求に対して、その分野の適切な専門家や専門機関に照会し情報を入手して提供したり、専門家や専門機関を利用者に紹介するサービスを「レフェラルサービス」といいますが、よりよい図書館サービスのため、照会先や紹介先のひとつとして、道総研を利用しませんか。

■ 「総合相談窓口」をクリック！ 「技術相談」をレファレンスサービスとして使う



黄色い「総合相談窓口」をクリック

「総合相談窓口」から照会し、疑問や質問の内容にふさわしい専門の研究者の回答を受けられます。

道総研のホームページ (<http://www.hro.or.jp/>)

■ 「エネルギー・環境・地質研究所」の図書室は個人への貸出しや相互貸借にも対応

1月、札幌市にある産業技術環境研究本部の「エネルギー・環境・地質研究所」（以下「エネ環地研」という。）の図書室を訪ね、様子を見せていただきました。

・所蔵資料の例

研究所の研究報告書や、道内各地の地質図及び説明書などの刊行物のほか、地熱、温泉、自然災害（火山、地震、地すべり等）などの関連分野の専門資料を備えています。

道総研サイトの「北海道立総合研究機構 OPAC」から蔵書検索ができます。

・資料の貸出しや相互貸借にも対応

エネ環地研の図書室が所蔵する資料の多くは、閲覧のほか個人への貸出しが可能で、市町村立図書館等への相互貸借にも対応しています。複写は行っていません。



研究所の刊行物

■ 研究成果等刊行物の多くは各試験場等のウェブページで公開

道総研の研究本部や各試験場から刊行している年次報告書や研究報告書や技術資料などの多くは PDF ファイルなどで各試験場のウェブページで公開されています。また、「北海道立総合研究機構 OPAC」からキーワードで検索して、本文ファイルを閲覧できるものもあります。

■ 例えば「ヒグマ」「地震」「高齢者住宅」など、身近な課題の解決にも

研究者や企業が扱うような高度で専門的な内容はもちろんですが、私たちの身近なテーマや暮らしの課題解決にも役立つ情報を入手できそうです。積極的に利用してみませんか。

YouTube 国立国会図書館公式チャンネル「遠隔研修教材」

国立国会図書館では、各種図書館の職員を対象に、YouTube の「国立国会図書館公式チャンネル」で図書館および図書館情報学に関する研修を動画で配信しています。「レファレンス業務に関する研修」、「国立国会図書館のサービス活用に関する研修（レファレンス業務以外）」、「資料保存、デジタル化に関する研修」の3つのカテゴリーが設けられています。

「レファレンス業務に関する研修」では、さらに（1）国立国会図書館の提供するレファレンスツール、（2）レファレンス主題（社会科学・科学技術・人文科学・その他）に細分化しています。「国立国会図書館のサービス活用に関する研修（レファレンス業務以外）」では、国立国会図書館の書誌データの利用方法、日本目録規則 2018 年版のポイント、障がい者サービスやデジタルコレクションが紹介されています。

「資料保存、デジタル化に関する研修」では、簡易な補修や帙づくり、資料デジタル化の基礎的な知識や権利処理等について学べます。

各々テーマを設定した動画の長さは約 30~120 分間となっていますが、章立てされていて部分的に視聴することができます。

スキルアップとサービスの充実に向けてイチオシです。使ってみませんか？

参照：国立国会図書館 HP トップ>図書館員の方へ>図書館員の研修>遠隔研修のページ
<https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/index.html>



文部科学省のホームページ「図書館の振興」

文部科学省のホームページ（トップ>教育>社会教育）に、「図書館の振興」として、図書館に関する法令・指針・調査報告・実践事例などをまとめたサイトが開設されています。

構成は、「関係法令等」、「国民の読書推進に関する協力者会議」、「これからの図書館の在り方検討協力者会議」、「子供の読書活動推進に関する有識者会議」、「提言等」、「調査研究報告書等」、「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」、「読書活動の推進等に関する委託事業」、「読書バリアフリー」、「リンク」にカテゴライズされています。

「関係法令等」では、図書館法、図書館法施行令、図書館法施行規則、図書館の設置及び運営上の望ましい基準など（法令は e-Gov 法令検索へのリンク）、「提言等」では、『これからの図書館像—地域を支える情報拠点をめざして—（報告）』（国立国会図書館のアーカイブプロジェクト WARP へのリンク）などが閲覧できます。

また、「調査研究報告書等」では、全国の図書館の実践事例集や実態調査報告書のほか、『図書館におけるリスクマネジメントガイドブック—トラブルや災害に備えて—』が掲載されています。そのほか「読書バリアフリー」では、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）や関連情報、図書館における障害者利用の促進に係る研修などの記録が紹介されています。

図書館を理解するための基本的な事項、図書館運営計画の策定や新たな取組みのための参考情報が満載です。ぜひ一度ご覧ください。

参照：文部科学省 HP 「図書館の振興」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/index.htm



■ 管内図書館協議会研修会の企画・運営について

みなさんの管内図書館協議会が開催する研修会、この2年ほどコロナ禍のため中止せざるを得ない状況やリモートによる開催が続いていましたが、今年度は徐々に規制が緩和される中で、いくつかの管内では従来の対面・集合型による研修会を開催しました。

そんな中、初めて研修会（事務局）の担当になった方から企画や運営にかかる相談も寄せられました。日常業務が多忙の中、テーマや講師を決め、日程・内容を調整し、運営にあたる過程は、大きな負担となっていることが伺えます。

そこで、北海道図書館振興協議会の事務局として培った経験をもとに、研修会を企画・運営するためのポイントなどを整理してみました。

1 テーマ(内容)の企画

まずテーマや内容を決めます。研修を実施することで「解決したい課題」が何かを明確にします。そのためには、管内の図書館（室）の現状や参加対象者の実態について把握する必要があります。管内（地域内）の図書館の活動、司書（正規職員、会計年度任用職員等）の配置、管理運営の実態等を勘案しなければ、効果のある研修にはなりません。また、事前にアンケートや聞き取りなどを行って、研修テーマ等のニーズを調査することを心がけましょう。最新の知識・技術を得るには、図書館界のトレンドや先進事例等の日常的な情報収集も欠かせません。

2 研修の構成

テーマの概要が決まったら研修全体の構成を考えます。講演や講義のほか、演習やワークショップを含めるなど、受け身一辺倒にならない形式も取り入れ、受講される方がポジティブな姿勢で参加できる工夫が望まれます。また、管内のみなさんが集う機会なので新たな取組みや事業の紹介、困ったことや悩みごとなどの情報交換を設定することも有効です。

3 研修の時期・日程

天候や業務の繁忙期を勘案しながら、みなさんが参加しやすい時期を設定します。また、北海道図書館振興協議会の各研修など、他の研修会と重ならないよう留意しましょう。開始や終了の時刻は、会場までの所要時間も配慮します。

4 講師依頼

テーマに沿って講師を検討します。日程の都合などでお引き受けいただけない場合もあるので、候補として3名くらい挙げておくが無難です。実際の依頼は、遅くとも研修会の予定日から2か月前には行いましょう。

【確認・伝達】

(1) テーマ、研修の位置づけ

研修のテーマや趣旨、主催、受講対象、担当していただく時間などをお伝えし、十分に内容を理解していただきます。受講者が確定したら事前にお知らせすると親切です。

(2) 当日の資料（テキスト）、使用する物品

配付資料（講師が持ち込むのか、事務局で印刷するのかなど）、PC関係（講師が持ち込む場合は接続ケーブルやスライドデータの種類など）、ホワイトボードや演台など事務局で用意すべき物品を確認します。

(3) 移動行程、会場入りや退場の時刻

会場までの行程（交通手段など）、送迎の要不要、滞在時間も忘れずに確認します。

(4) 謝礼

謝礼金、交通費、宿泊費など具体的な金額を提示します。

(5) 録音・録画、研修記録への掲載・公開

記録や関係者（当日の欠席者など）へ提供するための録音・録画、研修記録をHPや広報紙などに掲載する場合は、あらかじめ了承を得るようにします。

(6) 質疑応答への対応

割り当てる講演や講義の時間内に質疑応答を設けるのか、事前に受講者から質問などを受け付けるのか、講演後、別途受け付けるのか。また、当日対応し兼ねる質問は後日回答いただけるのか、など具体的に確認しておくことと当日の運営がスムーズに行えます。

(7) 開催要項や広報（チラシ）のためのプロフィールや写真

講師のプロフィールや写真などを掲載する場合は、必ずご本人の了承を得ます。

5 事後アンケート

事後アンケートの実施を推奨します。研修受講者の満足度や意見を聞くことで、研修が有意義なものであったかどうかを知り、どの程度効果があったのかを把握することができます。

集計結果は、会員のみなさんに送付（公開）しましょう。

図書館職員の研修は、「図書館サービス向上のため」と「特定分野の専門性を高めるため」の2つの視点が目的として掲げられます。もちろん図書館（室）によって、日常的に求められるサービスや職員体制が異なり、研修の企画にあたっては、地域の特色を踏まえるとともに各々の活動の現状に応じた内容が求められます。最近のトピックを知るための講演会よりも日常の活動についての情報交換から有効な手段を見出す場合もあります。

『公立図書館における図書館職員の研修に関する報告書』（全国公共図書館協議会 2008年3月刊）では、全国の事例や報告のほか、「研修実施マニュアル」や「研修モデル」を示し、研修機会の保証と研修内容の高度化に向けた提言がなされました。

また、同年6月には、文部科学省・これからの図書館の在り方検討協力者会議による検討結果が、「図書館職員の研修の充実方策について（報告）」として公開され、これからの図書館職員に求められる資質・能力として次の事項が示されました。

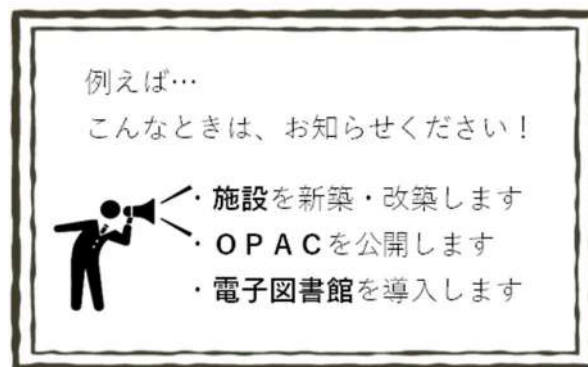
- ・社会の変化や地域の状況など図書館を取り巻く環境や制度等に関する知識
- ・図書館の存在意義を理解し、外部の人々にそれをわかりやすく説明できる能力
- ・生涯学習社会に対応し、人々の学習活動を支援するとともに様々な質問や問い合わせに対応する知識や技術
- ・高度化・多様化する学習ニーズに応えられるレファレンスサービスを実施するための知識・技術
- ・地域が抱える課題の解決のための図書館サービスや事業の企画・実施、そのための資料の組織化、コンテンツづくりのための知識・技術

管内によっては数年に一度くらいの頻度で、研修（事務局）を担当するところもあり、企画・運営にご苦労されるかと思いますが、地域の情報拠点としての図書館を目指し、職員の資質・能力の向上を図る効果的な研修の実現に努めたいところです。

もちろん、道立図書館では管内図書館協議会の研修会について、講師をはじめ、企画・運営に関するご相談にも応じています。

次号では、今年度お手伝いさせていただいた管内図書館協議会の研修事例を紹介する予定です。

参考：■ 『公立図書館における図書館職員の研修に関する報告書』
全国公共図書館協議会（東京都立中央図書館）のHP トップ>全国公共図書館協議会>調査研究報告書
<https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/zenkoutou/report/index.html>
■ 文部科学省のHP 図書館職員の研修の充実方策について（報告）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/teigen/08073040.htm



※ 情報提供並びにご寄稿いただきました方々の本文中の敬称は省略させていただきます。

編集後記



例年より窓から見える雪の量が少なく感じたので、江別の積雪量を確認したところ3月14日午前9時の時点で28cm、昨年と同じ日で積雪量は88cmでしたので、今年は本当に雪解けが早く春は近いと実感しました。

今春は3年ぶりに行動制限がなく、少しずつですがコロナ前の状態に戻りつつあるのかなと感じています。まだまだ油断はできませんが、昨年よりも活発な図書館事業ができる春になればいいなと思っています。



企画支援課では、みなさんの図書館（室）の活動の情報を集めています。
好評だった事業、新しく始めた取組、ホームページのリニューアルなどなど、いつでも受け付けています。

『あけぼのつうしん』読後の感想も歓迎します。よろしくお願いします。

shienka@library.pref.hokkaido.jp

あけぼのつうしん No. 83

発行日 令和5年（2023年）3月23日

編集 北海道立図書館総務企画部企画支援課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521

FAX 011-386-6906

ホームページアドレス <https://www.library.pref.hokkaido.jp/>